

沖縄戦：軍人戦死者より多い住民犠牲

沖縄戦では約20万人あまりの人が亡くなりました。そのうち日本兵の戦死者は6万6000人、アメリカ兵の戦死者は1万2500人です。沖縄県民の犠牲者は一般住民が約9万4000人、沖縄出身の軍人・軍属が約2万8000人で、合計約12万2000人です。朝鮮半島から連れてこられた人々も、少なくとも300人以上が亡くなりました。軍人・軍属よりも一般住民の犠牲者が上回ったことが、沖縄戦の大きな特徴です。

沖縄の一般住民が日本軍とアメリカ軍の激しい地上戦に巻き込まれてしまいました。アメリカ軍の無差別攻撃で多くの一般住民が亡くなりました。さらに沖縄を日本本土の防波堤とし、戦争を長引かせたことが犠牲を大きくする結果をもたらしました。

第32軍の司令部だった首里城の城壁から眺めた 壊滅状態の首里の町=1945年6月18日



(沖縄県公文書館所蔵)

人が兵士として戦場に投入され、高等女学校の生徒ら女子543人も臨時の看護婦などとして従軍しました。

沖縄で日本軍の陣地を攻撃する米軍火炎放射戦車。1945年5月17日撮影[時事通信社]



「鉄の雨」を降らせる米軍の物量攻撃に対し、日本側は爆弾を抱えて戦車に体当たりする自爆攻撃などで対抗。米軍は沖縄本島を南北に分断する形で進んだため、狭い南部には10万人以上とみられる一般県民が取り残され、米軍の激しい攻撃の中、まさに地獄絵が展開された。女性や子どもなど非戦闘員の集団自決なども発生し、およそ3カ月の地上戦で県民の戦死者は沖縄全体でおよそ15万人と推定されています。

軍人戦死者より多い住民犠牲

沖縄の一般住民が日本軍とアメリカ軍の激しい地上戦に巻き込まれてしまいました。アメリカ軍の無差別攻撃で多くの一般住民が亡くなりました。さらに沖縄を日本本土の防波堤とし、戦争を長引かせたことが犠牲を大きくする結果をもたらしました。日本兵による残酷な行為によって命を落とした住民もいます。

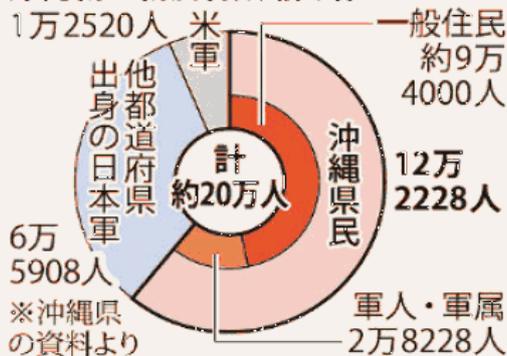
戦後27年続いた米軍統治

「基地の島」今も…

日本の敗戦後、アメリカ軍が沖縄を占領し、27年間もアメリカの統治下におかれます。日本軍がつくった基地はアメリカ軍のものとなり、その後、基地を拡大していきます。日本軍の「基地の島」だった沖縄が、今度はアメリカ軍の「基地の島」となるのです。沖縄は1972年、日本に返還されますが、広大な基地は残されたままです。

沖縄の山中、壕や陣地の跡には住民や日本兵の骨が地中に埋もれています。不発弾も見つかります。そして、地上戦から生き残った県民は心に深い傷を負ったままです。沖縄戦の悲しみは今も続いているのです。(『琉球新報』「沖縄戦争って」より)

沖縄戦の戦死者数(推計)



(資料) 毎日新聞(2016.6.23.付)

沖縄戦

1945(昭和20)年4月1日、米軍は20万人の兵力をもって沖縄本島への上陸を開始した。日本は陸軍約8万6000人、海軍約1万人で迎え撃ったが、そのほかに中学生以上の沖縄県民2万-2万500